令和２年度　自己評価実践報告書

学　校　名　　福島県立会津第二高等学校

Ⅰ　自己評価の概要

１　『学校経営･運営ビジョンについて』

(1)『学校経営･運営ビジョン』…(資料１)

(2)教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

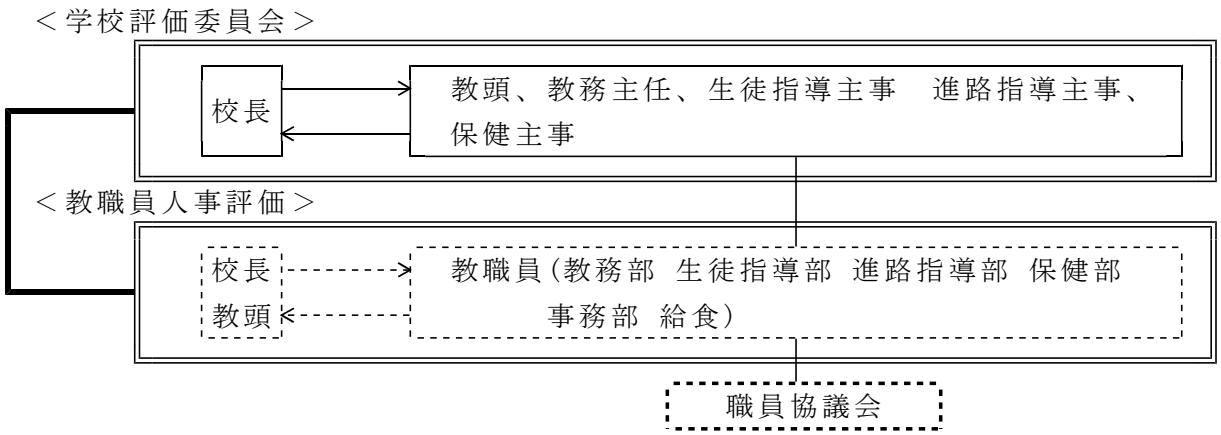
中学校時の不登校で社会への適応力の低いなどの多様な生徒が入学し、夜間定時制高校が抱える課題は多い。いかに自立した人間、地域社会に愛され、応えられる人間を育成していくかを使命課題として、教育目標、４つの努力事項を設定した。

(3)組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

令和元年度末の自己評価の結果を受けて学校評価委員会が課題等の分析をし、その結果を職員会議において周知した。これらを経て校長が学校経営・運営ビジョンを作成した。今年度は重点努力目標の達成のために「個別相談」の充実を心掛けることとした。その後、主任を中心として各校務分掌組織ごとに努力目標を設定した。

２　校内組織体制について

(1)組織図



(2)組織作成のねらい、意図

全職員が意欲的に評価活動に参画できるように組織化した。評価活動を活性化するために、次の２点に重点を置いた。

① 各部･係から要請があれば職員協議会を開催し、連携をとりながら学校全体で評価活動に取り組んだ。

②教職員人事評価と連動させ、個々の評価活動と学校全体の評価活動を一元化した。

３　自己評価年間計画について

(1)年間計画表…(資料２)

(2)作成のねらい、意図

学校評議員会と連動させながら、自校の特徴的な学校行事等の時期も考慮して評価の時期などを設定した。学校評議員会については、生徒の学校生活や活動の様子を理解してもらうため、第１回では授業参観と給食試食会を企画し、第２回は福島県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会津地区大会の様子を参観してもらった。

(3)自己評価年間実施状況

概ね年間計画通り実施できた。その都度課題を教職員で共有し、必要に応じて、かつ、できるところから改善しながら実施した。

Ⅱ　評価結果の概要

1　実施方法等

	年度末評価評価実施部署
自ら学ぶ意欲の育成	教　務　部、学校評価委員会
社会性の育成	生徒指導部、学校評価委員会
職業観の育成	進路指導部、学校評価委員会
地域社会との連携	保　健　部、学校評価委員会

○評価

学校経営･運営ビジョンの取組状況と各部・各学年の努力目標の達成状況および年度末評価アンケートで総合的に評価した。

○実施方法

学校経営･運営ビジョンの取組状況と各部・各学年の努力目標の達成状況を全教員が評価した。また、各項目共通の年度末評価アンケートを教員、保護者、生徒に実施し評価した。これらを学校評価委員会で総合的にまとめた。

○コメント

担当以外の校務分掌の努力目標についても評価するため、全教員が校務を把握することになり、このことが教員個々の意識の高さやいわゆる「風通しの良さ」につながっている。

2　アンケート及び回答数

（資料３:学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価･分析・反省）
（資料４:年度末評価アンケート）
（資料５:年度末評価アンケート集計）

努力目標に関する状況を、教員･保護者･生徒のそれぞれの立場･観点から４件法で質問し分析をした。特に、３者の意識のずれに注目し改善の参考にした。

４:そう思う　３:まあまあそう思う　２:あまりそう思わない　１:全くそう思わない

学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価の回答率…全員:100％
年度末評価アンケート回答率…生徒:89.7(71.0)％　保護者:96.6(76.7)％　教員:100(100)％
（　）は昨年度の回答率

3　評価基準について

評価平均を出し、下表のように設定した。

評価平均	3.8以上	3.0以上3.8未満	2.0以上3.0未満	2.0未満
評価基準	達成できた	概ね達成できた	あまり達成 できなかった	達成 できなかった

4　年度末評価のまとめ

(1)年度末評価実施の目的、意図

年度末評価を実施し、本校の課題、改善策を探るとともに、評価内容を参考資料のひとつとした。年度内に次年度について、校長は学校経営･運営ビジョン、各部･各学年は努力目標、および教職員は人事評価自己目標の検討に速やかに入ることを目的とした。

(2)年度末評価結果の分析および結果概況

『自ら学ぶ意欲の育成』について

「基礎基本の定着」に関して、本校においても各教員がさまざまな工夫をし、生徒の基礎基本の定着に努めているが、個々の生徒の能力差や学習意欲、コミュニケーション能力など課題も多く、その成果は十分とはいえないことから、今後、教員同士で授業実践例等を共有するなどして授業改善に努めていく必要がある。

「受験指導の充実」に関しては、模擬面接を主として全職員が協力して指導にあたり、生徒内定の大きな力となった。その一方で、教員が働きかけても動きの鈍い生徒もおり、そうした生徒の進路意識を高める工夫が必要である。

「充実した学校生活」に関しては、今年度はコロナウイルスの影響で様々な活動が制限されたが、各担任が窓口となり、生徒のケアに努めた。引き続き、より細やかに生徒の思いをくみ取れるよう努めていきたい。

『社会性の育成』について

「基本的生活習慣の育成」については、個別面談を通して生徒の実態を把握したうえで、登下校・給食指導において普段からの声かけをして挨拶、礼儀、行動、言動など基本的生活習慣の確立を促す指導ができた。

「安全教育の推進」については、臨時休業の影響で交通安全教室が実施できなかったが、その他の各種安全教育関連行事は計画通りに実施することができた。特に、スマホ安全教室や薬物乱用教室では生徒自ら考える学習ができ、安全に対しての意識が高まった。指導部便りは安全意識を含めた規範意識の向上に大変有効であった。

「心と身体の健康」については、健康についての各種便りを配付したほか、心の健康教室などの行事を計画通り実施した。各種健康診断などの再検査に行く生徒が少ない傾向が依然としてみられ、特に歯科の受診率が良くないことから、次年度は歯科の再受診・治療を重点的に促す指導をしていく予定である。

『職業観の育成』について

「進路意識の向上」については、進路講話を目的別に低学年、高学年に分けて実施した。例年７月に行っている４年生対象の就職準備会は、新型コロナウイルスの影響で８月の実施となったが、今回も進路意識の高揚に大きくつながった。

「進路情報の活用」については、不定期ではあるが進路便りを配付し、関係機関と

連携をとりながら的確な情報を生徒に提供することができた。また、企業訪問の内容を進路だよりに掲載して在校生の進路意識の啓発を図った。

「進路相談の充実」については、年度当初より準備をし、その生徒に合った面談を実施できた。また、進路アドバイザーやハローワークの就職支援ナビゲーターと連絡を密にとり、的確な助言をすることができた。

『地域社会との連携』について

「学校・家庭・地域との情報共有、連携の強化」ついては、校内の情報をホームページに掲載した。主に学校だよりを掲載する形での発信となったが、定期的に実施することができ、昨年比で更新の頻度も上昇した。個人情報の取扱いに配慮しながら、今後も校内情報を発信していくことは必要である。また、「学校へ行こう週間」に合わせて学校開放を実施しているほか、入学希望者には学校見学を随時受け付けており、学校の公開に努めている。また、本校について中学校の先生方にもっと知ってもらうため、今年度は域内中学校あてに学校案内を送付した。

「事業主との連携強化と、働く生徒の支援」については、生徒の就業を後押しし、就業率は６割前後で推移している。学年が上がるにつれて就業率も上がる傾向があることから、見就業の生徒への声かけを今後も継続したい。

(3)重点努力事項に対する達成状況

『個に応じた指導を通した生徒の自己実現を図る』

自己実現とは、自己の素質や能力などを発展させ、より完全な自己を実現してゆくことである。今年度は、その達成のために「個別相談」を充実させて、生徒の素質や能力を発展させるべく、共通理解をもって取り組んできた。そのため、各校務分掌において、面談活動を含め、なるべく多く生徒との関わりをもつことを目標としていた。結果として、４年生については就職を希望した者のうち１名を除いて全員内定を得ており、３年生１名が併修により卒業したことから、概ね目標は達成できたと思われる。

(4)分析に基づく改善の方向

本校の役割は、小中学校時代に不登校であった社会性に乏しい生徒を社会に通用する人間として送り出すことである。「個別相談」というキーワードを設定したことにより、全教職員が創意工夫しながら生徒に寄り添った面談等を行い、生徒は少しずつではあるが社会性を身につけつつあると思われる。来年度以降も「個別相談」を充実させていきたい。また、今年度のようなキーワード設定は教職員が一丸となって取り組める有効な手段であるため、来年度も学校経営･運営ビジョンの重点努力事項の中で、キーワードを設定し、教職員が組織的に活動できるようにしたい。

Ⅲ　広報の概要

１　目的や意図および実施状況

今年度の各種目標や取り組みについて周知するために、学校経営･運営ビジョンや学校

便り等の学校情報を保護者に配付すると同時にホームページに掲載した。また、学校案内などで生徒数や進路状況等の基本情報についてもホームページに掲載した。、

２　配布対象、配布時期、配布方法等

	配布対象	配布時期	配布方法	ホームページへの掲載
学校便り	生徒･保護者	奇数月末	手渡し	○
学校案内	不特定多数 域内中学校	6月以降随時 7月	手渡し 郵送	○
学校新聞	生徒･保護者	3月	手渡し	×
PTA新聞	生徒･保護者	3月	手渡し	×
生徒指導便り	生徒･保護者	毎月	手渡し	×
進路便り	生徒･保護者	不定期	手渡し	×
図書館便り	生徒･保護者	ほぼ毎月	手渡し	×
保健便り	生徒･保護者	ほぼ毎月	手渡し	×
年度末アンケート結果	生徒･保護者	3月	手渡し	○
学校評価	不特定多数	3月		○

３　実施してみての反省点等

学校情報は、生徒を通じて保護者に届くようにしているが、生徒に保護者へ渡す意識をもたせるように内容を伝えながら配付するなど、生徒から保護者にきちんと届ける指導はやはり必要である。学校便りや学校案内以外のものについても、掲載にあたって不特定多数へ公開しても差し支えないかを慎重に見極めながら、ホームページに掲載し、地域住民の方々に本校についてもっと知ってもらえるよう、情報提供に努めたい。

Ⅳ　次年度へ向けて

１　評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

年度末評価アンケートの結果については昨年度と同様の傾向が見られ、全体的に評価が高く、特に教員の評価が高い。昨年度と比較して保護者の評価が微増となっているが、回収の方法を改善したことで回収率が上がったことをふまえても良い傾向であると思われる。一方で、「学習指導」「進路指導」という、教育上核を成す分野において生徒と教員間に評価のギャップがあるため、問題を見つけ出し対処する必要がある。生徒の評価が教員の評価に近づくよう、今まで以上に生徒に目配り・気配りをして教科・生徒指導を行う努力をしなければならない。そして、本校の様々な目標を達成させ、魅力ある学校づくりをしていきたい。

２　自己評価全体の次年度の取り組みについて

今年度と同様に、『学校経営･運営ビジョン』→『各部･各学年努力目標』→『人事評価目標』をの順で目標を設定し一貫性をもたせる。担当校務分掌以外の校務内容についても

意識をもたせるため、そしてチェック機能を兼ねるために年度末評価においては担当以外の評価も行うようにする。

３　次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望について

学校経営･運営ビジョンの目標達成のために、職員協議会や職員会議で情報交換をまめに行っていたこと、年度末評価を担当以外の校務分掌の努力目標についても評価したことで、校務に対する教員の意識を高めることができた。したがって、これらのことは今後も継続していきたい。また、管理職以外の学校評価委員にも、もう少し意識をもってもらうことが必要であり、そのために活動をもっと機能させ、さらに適切かつ有効的に評価をしていけるようにしなければならない。

４　終わりに

会津地区唯一の夜間定時制の現在の役割を十分認識し、校長のリーダーシップのもと生徒の自己実現や社会性の習得を目指し、教員が一丸となって校務に取り組んでいけるようにしたい。そして、年度末には良い評価が得られるように、または自ら良い評価ができるように努力してしていきたい。

＜別紙資料＞

資料１　『学校経営･運営ビジョン』
資料２　学校評価年間計画
資料３　学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価･分析・反省
資料４　年度末評価アンケート
資料５　年度末評価アンケート集計